

1. 会報発行作業の報告と課題

第76号会報（10月号）の発行作業は無事に完了したものの、発送作業に関して課題が共有された。

- **非会員の発送作業の負担**：会員の発送作業は比較的スムーズに終わるが、非会員への発送作業は仕分けや貼り付けなどに手間がかかり、特定の個人に負担が集中している状況が問題視された。
- **今後の対策**：今後は、作業内容を細かく仕分けし、誰がどのような作業に協力できるかを明確にする必要があるという意見が出た。また、作業を交代で担当することで、皆が内容を理解し、一人の負担を軽減できるようにすべきと提言された。**次回理事会の議案とする。**
-

2. 第30回歩こう会（10月18日）について

- **参加状況**：現時点で参加予定者は23名程度。二次会会場は明日の下見で決定予定
- **二次会⇒楽が気** 参加者21名 店電話03-5408-1898（議事録作成時に判明）
- **下見**：10月11日（土）には、畠山会長、須藤、梅津、望月の4名が予定。
- **今後の予定地**、六義園など候補地を検討する。

3. 今後の理事会の日程

今後の理事会の日程について、以下のように確認・調整された。

開催日	目的	時間	備考
11月15日（土）	理事会	14:00	
12月10日（水）	理事会	14:00	べんべろの会の発表会日程との兼ね合いで、第1候補の12月6日（土）から変更される可能性が高い。
1月16日（金）	会報発送作業 と理事会	13:00	第77号（1月号）の発送を兼ねる。

4. 会報第77号（1月号）の内容検討

第77号（1月号）の会報記事内容について、瀬川顧問から記事内容表に基づき説明があった。

- **主要記事**：1ページ目には**市長の新年挨拶**と**畠山会長の年頭所感**（顔写真入り）が掲載される。
- **活動報告**：丸井北千住でのふるさとマルシェ、都庁の観光物産展の報告が掲載される。
- **アトラクション報告**：「べんべろの会」の発表会は日程が未確定のため、**第5回カラオケ会（12月13日）の報告**を優先的に掲載することが検討された。
- **ふるさと会報告**：石鳥谷、北上、東和、紫波の各ふるさと会への参加報告が掲載される。畠山会長が4箇所の総会等の写真を撮る予定。
- **花巻あれこれ**：
 - ふるさと納税の状況（令和6年度は84億円、全国14位）。
 - 北上川での**花巻地区川街づくり計画**。

- **大迫高校の存続危機**と、それに対する市からの新入生確保のための支援策（塾費用支給、国内留学体験など）。
- 花巻出身の先人、**菊池カメラマン**（広島 1945 写真展で特集）のコラムが掲載予定。
- **市政功労者表彰**：瀬川顧問が花巻市の**市政功労者表彰**（最高賞）を受賞予定であり、その受賞式（11月2日）の報告を会報に載せる。

●

5. 第5回カラオケ会（12月13日）について

- **開催概要**：12月13日（土）14:00 から神田駅南口のカラオケマックで**忘年会を兼ねて**開催。
- **集合時間・場所**：買い出しのため、13時45分に神田駅南口改札に集合します。
- **飲食**：ソフトドリンクは飲み放題ですが、アルコールや食べ物は**各自持ち込み**

6. その他の重要議題

べんべろの会との連携のあり方

会の現状：べんべろの会は現在、活動継続が難しい危機的な状況にあり、花巻人会からの協力は大変ありがたいという認識が共有された。

協力の方向性：べんべろの会は独立した別組織であるため、花巻人会は可能なレベルの外部支援で協力し、会報やホームページに活動を掲載するなど、集客への応援等のスタンスを取ることが望ましいとの見解が示された。

会費未納者への対応：年会費を長期間振り込んでいない会員に対し、**畠山会長**が作成した挨拶文を添えて振り込みを促す文書を出す予定。これは、会員数の減少傾向（去年から30人減り、このままでは5年で100人を切る可能性）を食い止めるための対策の一環。

スポーツ交流会：まずは**ボーリング大会**を開催する案が有力候補として挙がりました。特に高齢者でも楽しめるロイヤルスポーツとしてボーリングが注目されており、東京ドームボウリングセンターや池袋などが候補地として挙がった。具体的な計画作成の担当者は未定。**先ずは有志でトライアルで実施してみる。1月頃か？**

会報のあり方：会報のスタイルや予算（ページ数削減、発行回数削減の可能性など）、次期編集長の人選について、**次回の理事会（11月15日）で議論**を行う必要性が確認されました。
他のふるさと会の会報事例を参考に、役員それぞれ、どのような内容や方向性、形式等各自の意見を考えてくること。

文責： 理事 高橋 勉